

卓越研究員事業について

(参考資料集)



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

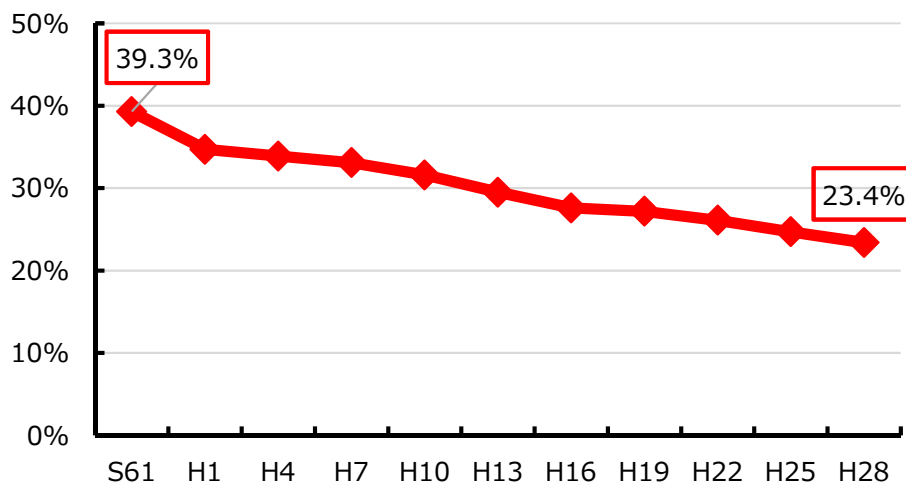
1. 事業実施の背景と政府方針

課題①：若手研究者割合の低下（大学本務教員に占める若手教員の割合）

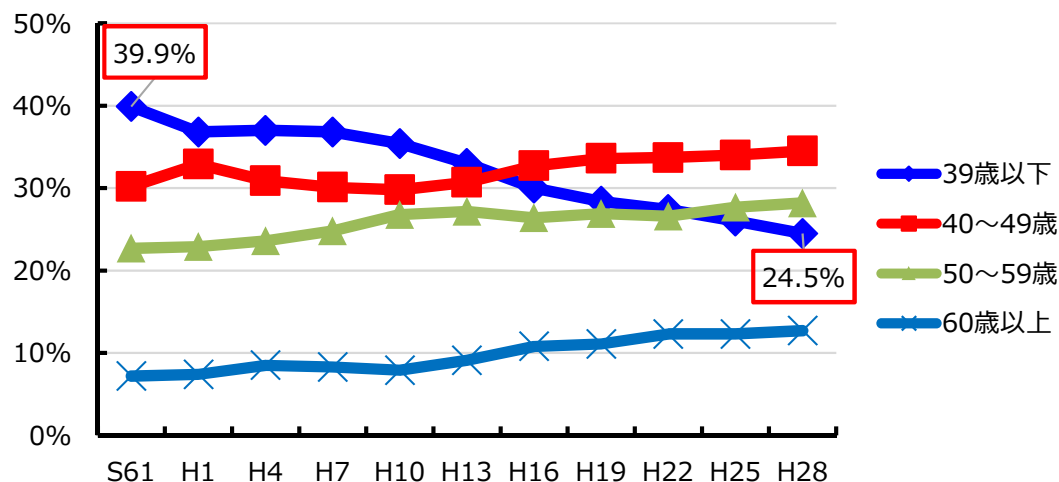
○ 大学本務教員に占める若手教員の割合は低下傾向。

※「第5期科学技術基本計画」(平成28年1月22日閣議決定)において「第5期基本計画期間中に、40歳未満の大学本務教員の数を1割増加させるとともに、将来的に我が国全体の大学本務教員に占める40歳未満の教員の割合が3割以上となることを目指す」とされている。

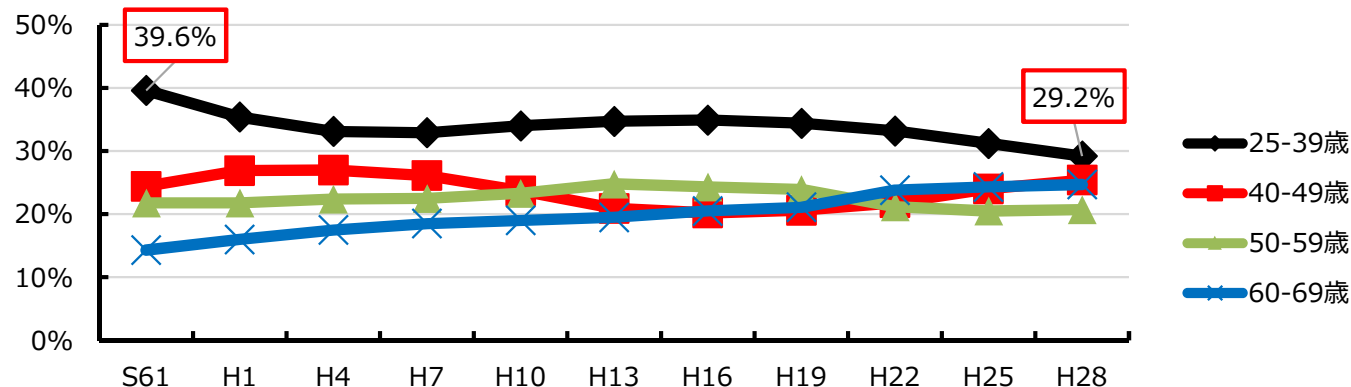
40歳未満本務教員比率（全大学）



国立大学教員の年齢階層構造



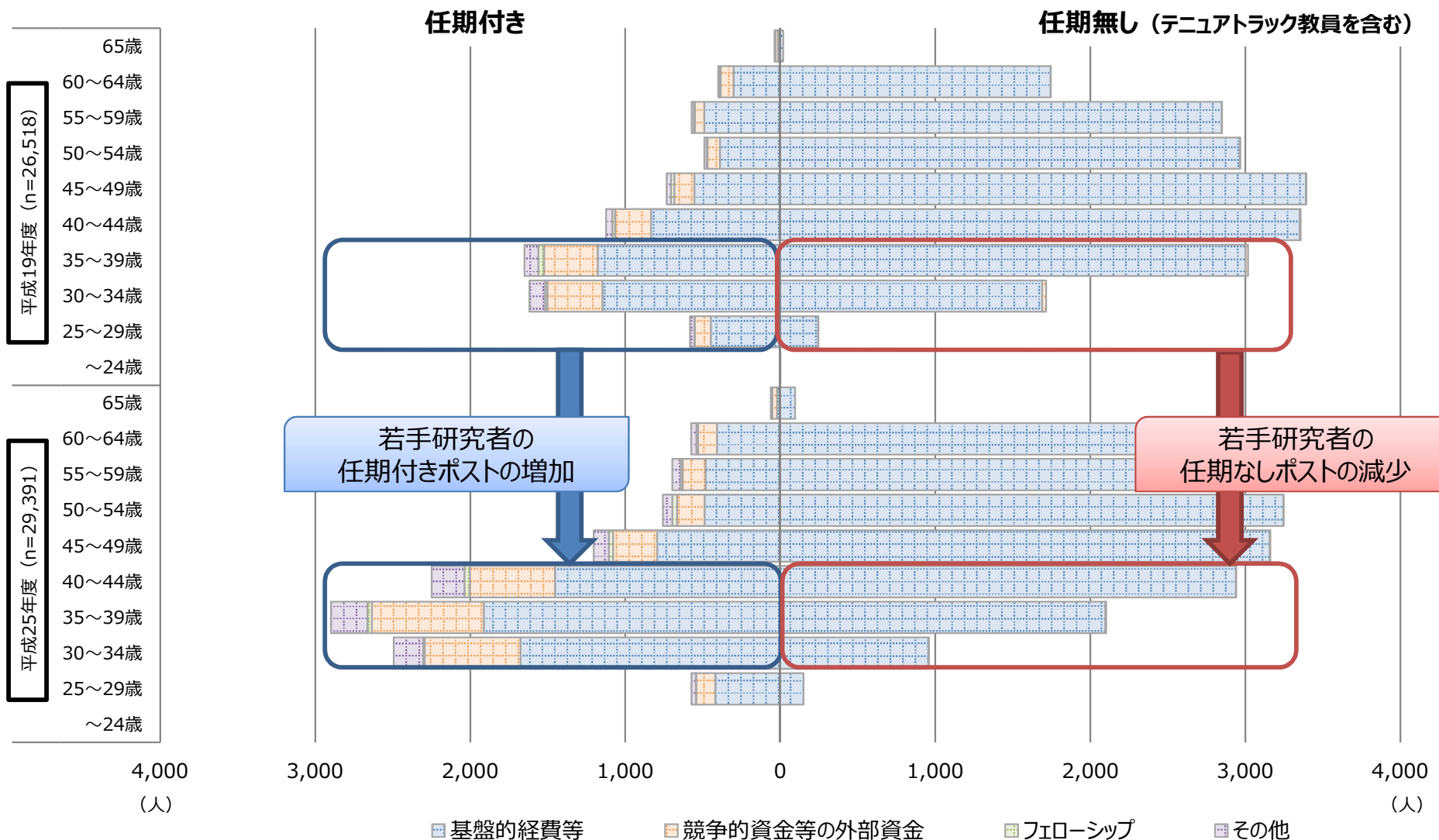
日本の人口の年齢階層別比率（25－69歳）



出典：「学校教員統計調査」（文部科学省）及び「人口推計」（総務省）に基づき、科学技術・学術政策研究所並びに文部科学省において集計

課題①：若手研究者割合の低下（研究大学における教員の雇用状況）

○ 研究大学（RU11）においては、任期なし教員ポストのシニア化、若手教員の任期なしポストの減少・任期付ポストの増加が顕著。



※平成25年度のnには不明者4人を含む

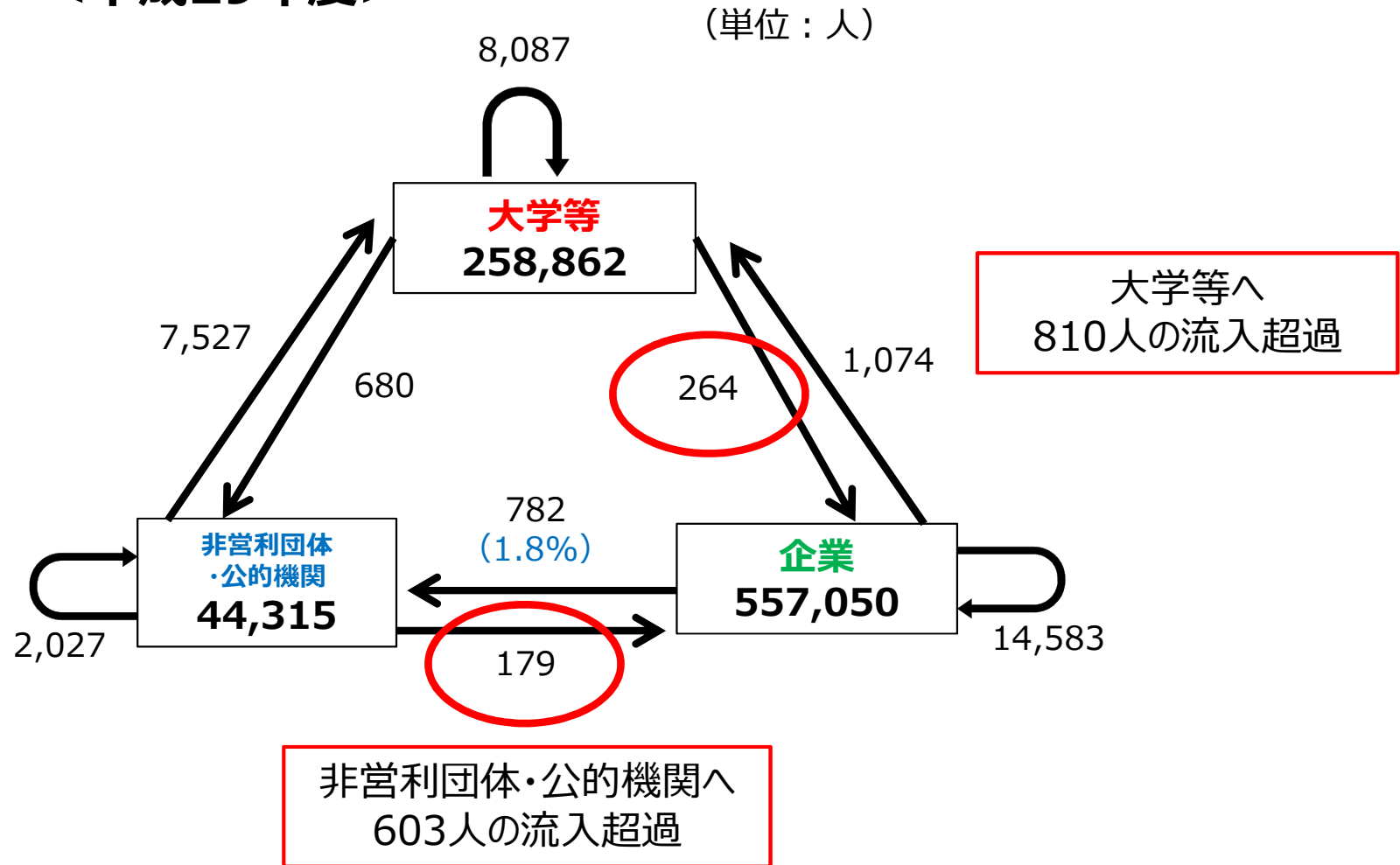
※学術研究懇談会（RU11）を構成する11大学における大学教員の雇用状況に関する状況を調査したもの

出典：「大学教員の雇用状況に関する調査」（平成27年9月 文部科学省、科学技術・学術政策研究所）

課題②：産学官の研究機関における研究者の状況（大学本務教員の移動状況）

- 研究者のセクター間・セクター内の移動率はともに低く、特に、大学等や公的機関等から企業への移動者が少ない。

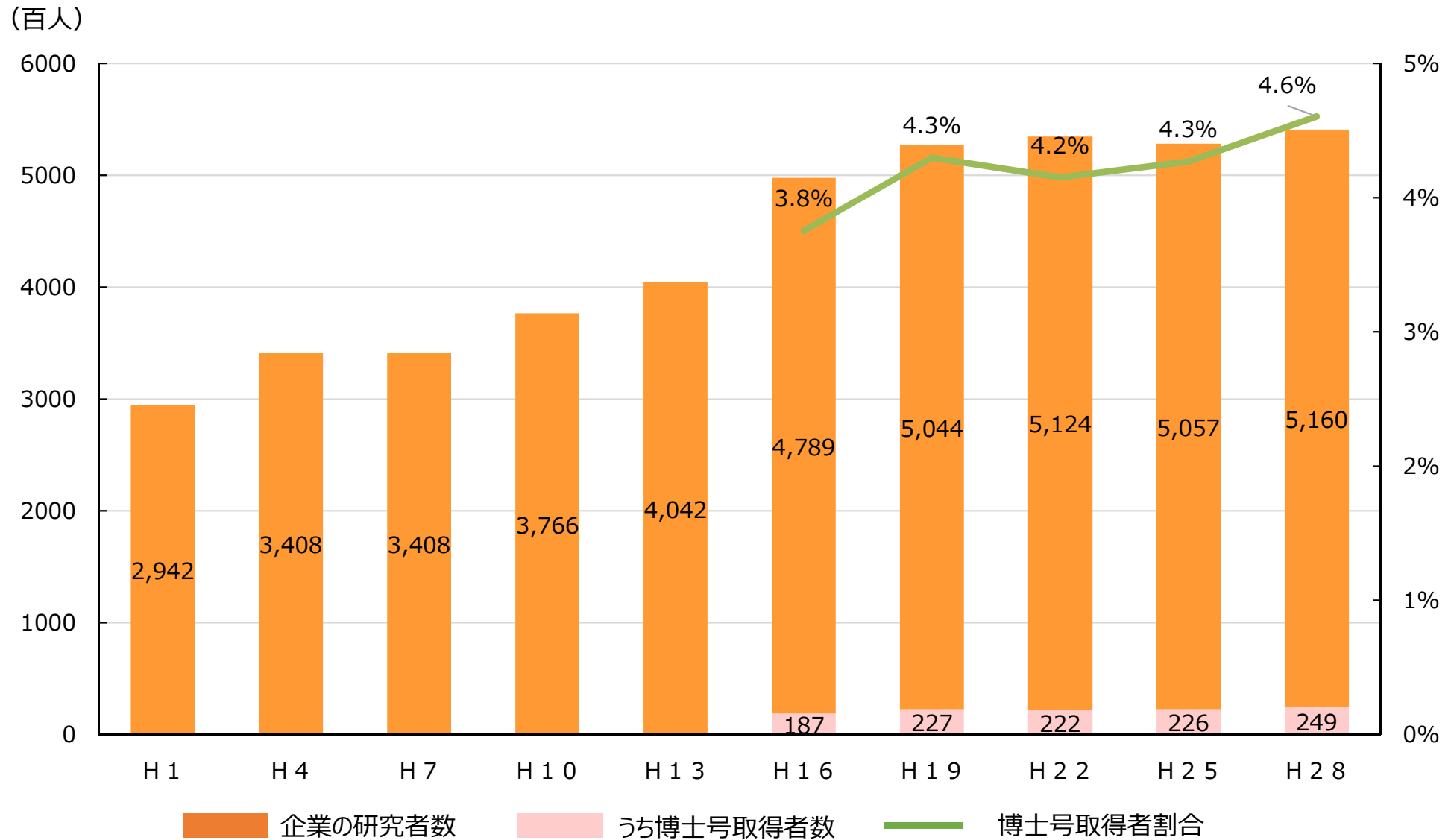
<平成29年度>



※移動割合とは、各セクターへの転入者数を転入先のセクターの研究者総数で割ったものを指す。
※大学等の研究者からは博士課程学生を除いた。

課題②：産学官の研究機関における研究者の状況（我が国企業研究者に占める博士号取得者の割合）

○我が国の企業研究者に占める博士号取得者の割合は、微増傾向にある。

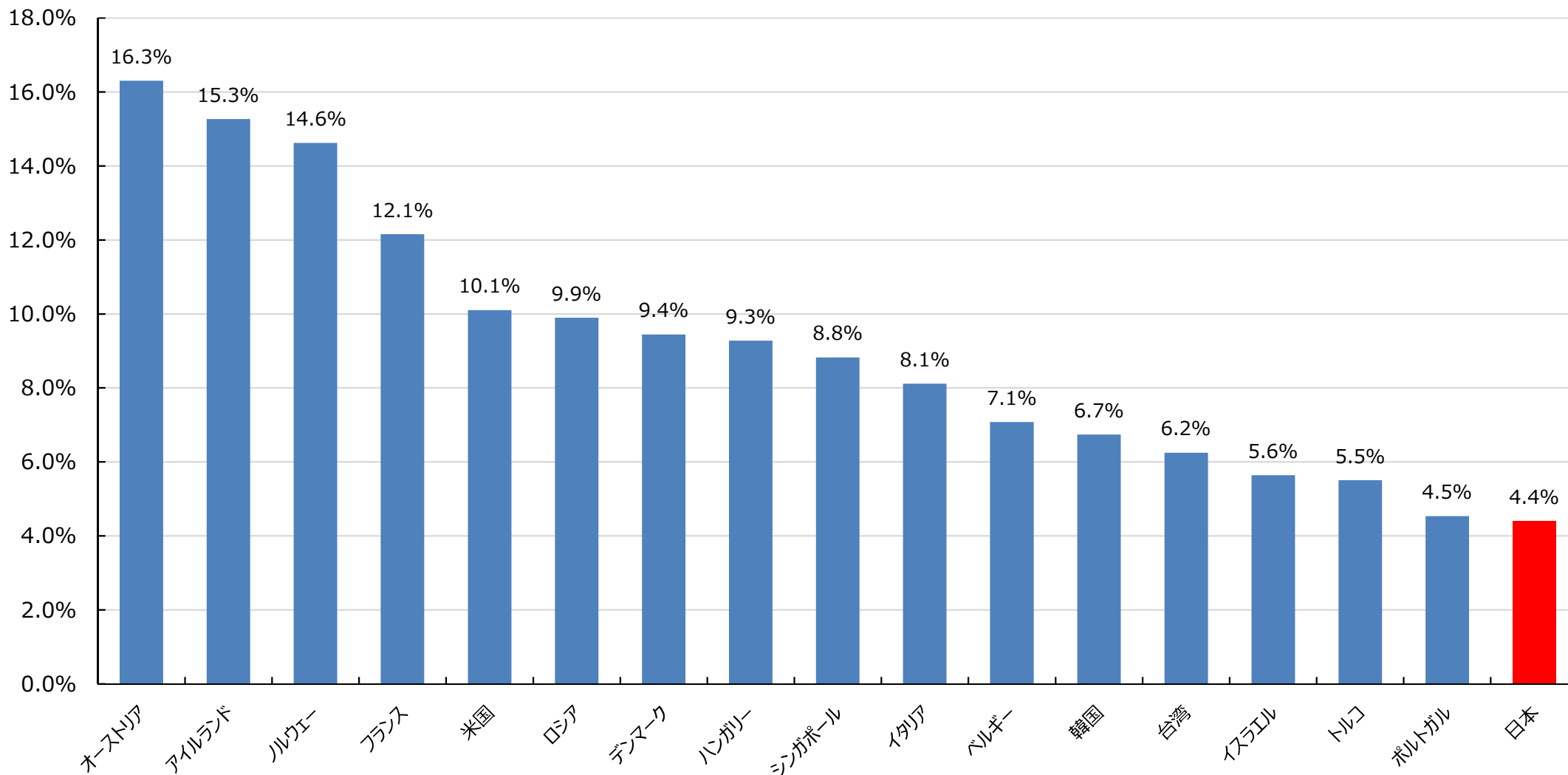


出典：総務省「科学技術研究調査報告」を基に文部科学省作成

注：すべてフルカウント換算していない。平成13年以前と平成16年以降は研究者の定義が異なるため、単純比較できない（平成13年以前は「研究を主とする者」の人数であり、平成16年以降は「研究を主とする者」と「研究を兼務する者」の人数）。

課題②：産学官の研究機関における研究者の状況（企業研究者に占める博士号取得者の割合（各国比較））

○ 我が国は、企業研究者に占める博士号取得者の割合が各国と比較して低い。



出典：

（日本）総務省統計局「平成30年科学技術研究調査」

（米国）“NSF, SESTAT”

（その他の国）“OECD Science, Technology, and R&D Statistics”

以上のデータを基に文部科学省作成

第3章 知の創造

（1）大学改革等によるイノベーション・エコシステムの創出

③今後の方向性及び具体的に講ずる主要施策

iii）研究生産性の向上

競争的研究費の一体的な見直し、独創性や分野横断的な俯瞰力を備えた人材の育成等を行うことで、若手研究者による研究や新興・融合領域の開拓に資する挑戦的な研究を奨励するとともに、多様な外部資金を活用して研究者を雑務から解放し、研究に専念できる環境を整備する。

<若手研究者育成の強化>

- 文部科学省は、若手研究者等が、競争的な環境の下、腰を据えて研究に取り組み、自身のキャリアを構築できるよう、「**卓越研究員事業**」の実施状況を踏まえ、活躍の場の確保や自立的な研究環境を整備

第2Ⅱ．経済構造革新への基盤づくり

[1]3．イノベーションを生み出す大学改革と産学官連携・ベンチャー支援

3－1．自律的なイノベーションエコシステムの構築

今後、世界と互して競争を行うためには、イノベーションの果実が次の研究開発に投資されるイノベーションエコシステムを産学官が協力して構築することが必要

(3) i) 大学改革等による知的集約産業の創出

③研究生産性の向上

- 若手研究者等が、競争的な環境の下、腰を据えて研究に取り組み自身のキャリアを構築できるよう、**卓越研究員事業**の実施等により、活躍の場の確保や研究マネジメント力の向上を図る。

今後起こり得る様々な変化に対して的確に対応するため、**若手人材の育成・活躍促進**と大学の改革・機能強化を中心に、基盤的な力の抜本的強化に向けた取組を進める。

○ 人材力の強化

- 若手研究者のキャリアパスの明確化とキャリアの段階に応じ能力・意欲を発揮できる環境を整備（**若手向け任期なしポストの拡充促進、大学の若手本務教員の1割増**など）

国内外の人材、知、資金を活用し、新しい価値の創出とその社会実装を迅速に進めるため、**人材、知、資金があらゆる壁を乗り越え循環**し、イノベーションが生み出されるシステムを構築。

○ オープンイノベーションを推進する仕組みの強化

- 人材の移動の促進、人材・知・資金が結集する「場」の形成、
- こうした取組を通じたセクター間の研究者移動数2割増、大学・国立研究開発法人の企業からの共同研究受入れ額の5割増

2. 事業実施状況

卓越研究員事業の実施状況①（平成31年1月30日時点）

	提示 ポスト数	応募者数	候補者数	採用決定者数		
				卓越 研究員	関連 研究者※	計
平成28年度	317(96)	849	176	87(5)	34(3)	121(8)
平成29年度	204(56)	517	170	72(3)	21(2)	93(5)
平成30年度	156(30)	494 <334>	200 <126>	55(4)	15(1)	70(5)

(注) ()内は企業から提示のあったポスト数及び企業に採用された研究者数。

< >内は応募段階において企業に興味があったとした研究者数。

※関連研究者とは、卓越研究員事業を通じて研究機関から提示のあったポストに採用された卓越研究員以外の若手研究者をいう。

○平成30年度研究機関別決定者数 計 53名(35機関)

	機関名	卓越研究員数
1	室蘭工業大学	1
2	北見工業大学	1
3	岩手大学	1
4	東北大学	1
5	山形大学	2
6	筑波大学	1
7	群馬大学	1
8	千葉大学	2
9	東京大学	2
10	東京工業大学	2
11	電気通信大学	1
12	横浜国立大学	1
13	新潟大学	1
14	金沢大学	4
15	岐阜大学	1
16	名古屋大学	2
17	京都大学	1
18	京都工芸繊維大学	1

	機関名	卓越研究員数
19	奈良先端科学技術大学院大学	1
20	島根大学	1
21	岡山大学	2
22	広島大学	1
23	九州大学	2
24	熊本大学	1
25	大阪府立大学	1
26	東海大学	2
27	物質・材料研究機構	4
28	日本原子力研究開発機構	4
29	理化学研究所	1
30	産業技術総合研究所	3
31	宇宙航空研究開発機構	1
32	オンチップ・バイオテクノロジーズ	1
33	ソニーコンピュータサイエンス研究所	1
34	日立製作所	1
35	日本電子	1
36	公益財団法人がん研究会	1

卓越研究員事業の実施状況② (平成31年1月30日時点)

<分野別>

・平成29年度

	総合	人文学	社会科学	数物系科学	化学	工学	生物学	農学	医歯薬学	分野指定なし	合計
提示ポスト	52	3	2	25	19	59	12	9	22	1	204
卓越研究員申請者	171	10	4	120	51	63	44	28	26	-	517
卓越研究員候補者※	71	7	2	49	29	28	30	14	17	-	247
卓越研究員決定者(研究分野ベース)	24	0	0	19	4	10	5	6	4	-	72
卓越研究員決定者(ポストベース)	17	0	0	17	5	15	4	6	8	0	72

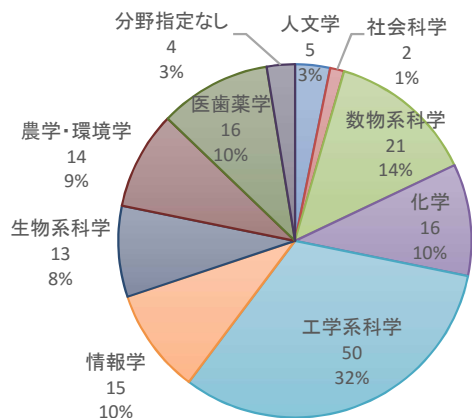
※平成28年度卓越研究員事業のうち平成29年度卓越研究員事業に継続する者を含む。

・平成30年度

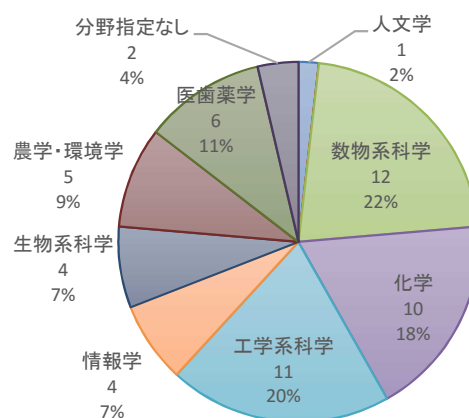
	人文学	社会科学	数物系科学	化学	工学系科学	情報学	生物系科学	農学・環境学	医歯薬学	分野指定なし	合計
提示ポスト※※	5	2	21	16	50	15	13	14	16	4	156
卓越研究員申請者	23	13	113	58	125	27	65	32	38	-	494
卓越研究員候補者	8	4	45	26	50	11	26	12	18	-	200
卓越研究員決定者(研究分野ベース)	1	3	10	9	13	4	6	3	6	-	55
卓越研究員決定者(ポストベース)	1	0	12	10	11	4	4	5	6	2	55

※※3つまで選択可能な研究分野のうち1つ目に記載の研究分野を指す。

H30提示ポスト (156件)



H30卓越研究員 (ポストベース) (55名)



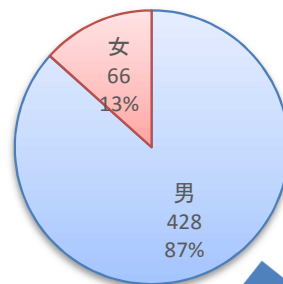
- 平成30年度から審査を行う研究分野の区分を変更。
- 数物系科学、化学、医歯薬学で提示割合より高い決定者割を示す。
- 研究分野ベースで見た場合、平成30年度に人文学と社会科学分野の決定者が合わせて0名から4名に増加。

卓越研究員事業の実施状況③ (平成31年1月30日時点)

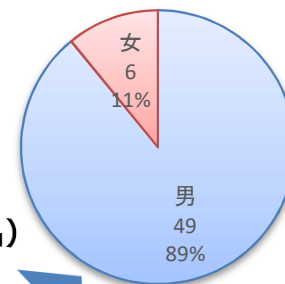
<性別>

		男	女	合計
平成29年度	卓越研究員申請者	459 (89%)	58 (11%)	517
	卓越研究員候補者※	213 (86%)	34 (14%)	247
	卓越研究員決定者	63 (88%)	9 (13%)	72
平成30年度	卓越研究員申請者	428 (87%)	66 (13%)	494
	卓越研究員候補者	183 (92%)	17 (9%)	200
	卓越研究員決定者	49 (89%)	6 (11%)	55

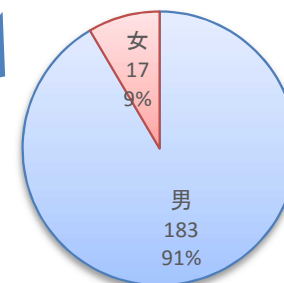
H30申請者 (494名)



H30決定者 (55名)



H30候補者 (200名)

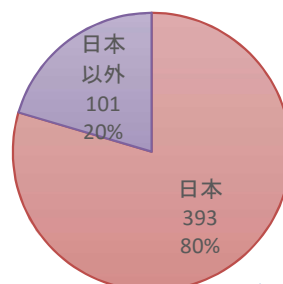


○申請者に占める女性の割合は10%程度と低く、候補者、決定者に占める割合も同程度。

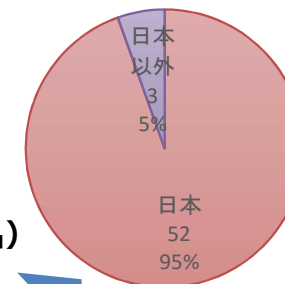
<国籍別>

		日本	日本以外	合計
平成29年度	卓越研究員申請者	450 (87%)	67 (13%)	517
	卓越研究員候補者※	237 (96%)	10 (4%)	247
	卓越研究員決定者	70 (97%)	2 (3%)	72
平成30年度	卓越研究員申請者	393 (80%)	101 (20%)	494
	卓越研究員候補者	187 (94%)	13 (7%)	200
	卓越研究員決定者	52 (95%)	3 (5%)	55

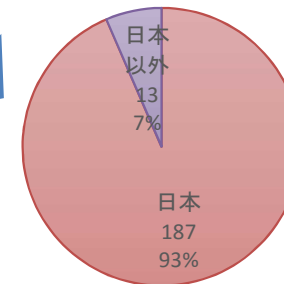
H30申請者 (494名)



H30決定者 (55名)



H30候補者 (200名)



○外国籍の申請者割合が20%を超え、対前年度比で7ポイント増加。ただし、決定者割合は約5%にとどまる。

※平成28年度卓越研究員事業のうち平成29年度卓越研究員事業に継続する者を含む。

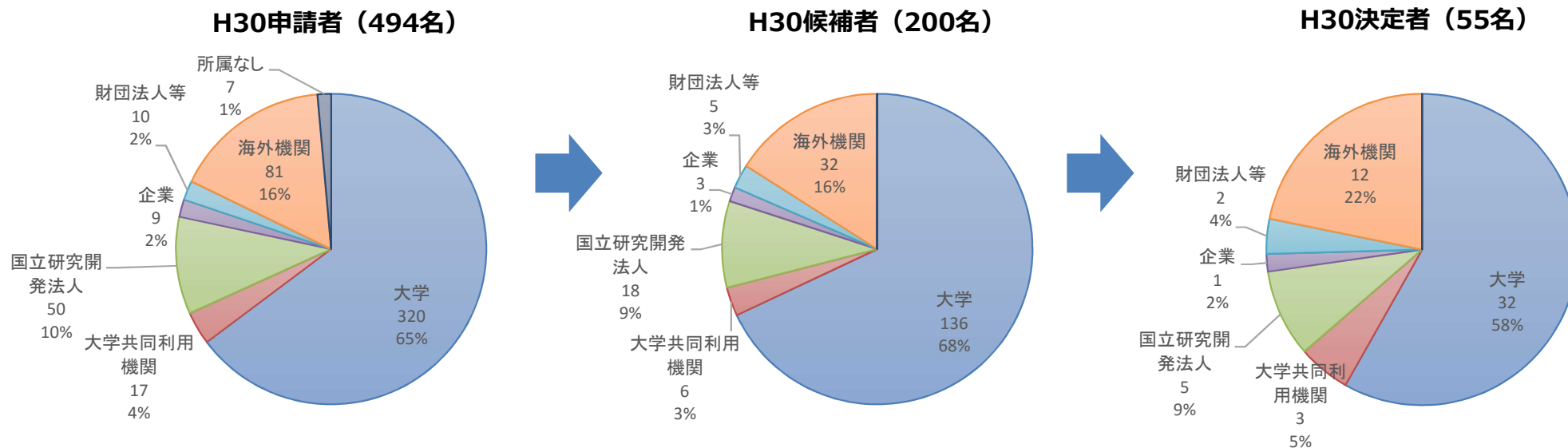
卓越研究員事業の実施状況④ (平成31年1月30日時点)

<申請時所属機関別>

		大学	大学共同 利用機関	国立研究 開発法人	企業	財団法人 等	海外機関	所属なし	合計
平成29年度	卓越研究員申請者	326	12	64	9	4	97	5	517
	卓越研究員候補者※	160	4	31	4	2	46	0	247
	卓越研究員決定者	45	0	10	0	1	16	0	72
平成30年度	卓越研究員申請者	320	17	50	9	10	81	7	494
	卓越研究員候補者	136	6	18	3	5	32	0	200
	卓越研究員決定者	32	3	5	1	2	12	0	55

※平成28年度卓越研究員事業のうち平成29年度卓越研究員事業に継続する者を含む。

- 申請時所属機関は昨年度と同様の傾向。
- 国内大学所属の者が60%以上を占める。
- 海外機関所属の者の決定者に占める割合が、申請者に占める割合より高い傾向。



卓越研究員事業のポスト提示・決定状況①（平成31年1月30日時点）

国立大学（36機関, 40機関, 58機関）	H30		H29		H28	
	申請	決定	申請	決定	申請	決定
1 北海道大学	1		1		4	2
2 室蘭工業大学	1	1			1	1
3 帯広畜産大学					1	
4 北見工業大学	2	1	1			
5 弘前大学			1		1	
6 岩手大学	1	1	1		1	1
7 東北大学	2	1	5	3	3	
8 秋田大学	1				1	
9 山形大学	5	2	3	2	5	4
10 茨城大学			1	1	2	1
11 筑波大学	2	1	2	2	2	1
12 宇都宮大学			1		4	1
13 群馬大学	2	1	7	3	2	1
14 埼玉大学			2	2	2	
15 千葉大学	2	2	2		6	3
16 東京大学	5	2	12	7	23	7
17 東京医科歯科大学	1				1	1
18 東京農工大学			1		4	3
19 東京芸術大学			1		1	
20 東京工業大学	2	2	3	1	3	
21 お茶の水女子大学					2	
22 電気通信大学	10	1	3	2		
23 一橋大学					1	1
24 横浜国立大学	1	1	1	1	2	1
25 新潟大学	1	1	3	1	2	
26 長岡技術科学大学	1		2	1	4	1
27 富山大学					1	
28 金沢大学	7	4	12	6	7	2
29 福井大学	2				4	2
30 山梨大学			2		3	2
31 信州大学			1	1	2	1

	H30		H29		H28	
	申請	決定	申請	決定	申請	決定
32 岐阜大学	2	1	1	1	1	
33 静岡大学					1	
34 浜松医科大学	1		1		1	
35 名古屋大学	3	2	1		4	2
36 名古屋工業大学					1	1
37 豊橋技術科学大学					1	1
38 三重大学	1				2	
39 滋賀医科大学					1	1
40 京都大学	4	1	9	5	15	5
41 京都工芸繊維大学	2	1	2	2	2	2
42 大阪大学	2		3	1	6	3
43 神戸大学			2	2	4	1
44 鳥取大学					1	
45 島根大学	3	1	2	1	2	1
46 岡山大学	5	2				
47 広島大学	2	1	3	1	3	
48 山口大学			1		2	
49 徳島大学					1	
50 香川大学					2	
51 高知大学					1	1
52 九州大学	4	2	1		7	2
53 九州工業大学	2		4		2	1
54 佐賀大学	3				2	1
55 長崎大学			2	1	7	2
56 熊本大学	2	1	3	3	5	3
57 宮崎大学	2		3		5	
58 鹿児島大学	3		3		4	1
59 政策研究大学院大学					1	1
60 北陸先端科学技術大学院大学					1	
61 奈良先端科学技術大学院大学	1	1	1	1	1	1
計	91	35	110	51	181	66

(注) ()内は順にH30申請機関数, 29申請機関数, H28申請機関数を示す。1ポストに対して複数名採用したポストあり。

卓越研究員事業のポスト提示・決定状況②（平成31年1月30日時点）

企業（13機関, 21機関, 23機関）	H30		H29		H28	
	申請	決定	申請	決定	申請	決定
1 ユーグレナ	1		1	1	3	
2 パナソニック	5		7		7	1
3 オンチップ・バイオテクノロジーズ	5	1				
4 住友電気工業	1		15		22	1
5 ソニーコンピュータサイエンス研究所	1	1	1		1	1
6 日立製作所	2	1	2		7	
7 Nextremer	1					
8 HIROTSU バイオサイエンス	1		1	1		
9 ジーンクエスト	1					
10 リパーフィールド	1		1			
11 JFEスチール	9		10		15	
12 シンクサイト	1		1			
13 日本電子	1	1	1		1	
14 豊田自動織機					1	
15 三菱電機			1		4	
16 富士通研究所			1		1	
17 第一三共			4		4	
18 富士フイルム					1	1
19 日産アーク					2	
20 NEC			2		1	
21 キヤノン					4	
22 トヨタ自動車					1	
23 住友化学					1	1
24 アステラス製薬					4	
25 旭化成					1	
26 JXエネルギー					1	
27 日産自動車					10	
28 飯田グループホールディングス					3	
29 ニコン					1	
30 ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ			2			
31 日本製粉			1	1		
32 キリン			1			
33 Karydo TherapeutiX			1			
34 ダン計画研究所			1			
35 味の素株式会社			1			
36 出光興産株式会社			1			
計	30	4	56	3	96	5

公立大学（3機関, 2機関, 2機関）	H30		H29		H28	
	申請	決定	申請	決定	申請	決定
1 首都大学東京	1					
2 大阪市立大学			3	1	4	1
3 大阪府立大学	2	1	3	2	2	
4 福岡女子大学	2					
計	5	1	6	3	6	1

私立大学（1機関, 4機関, 3機関）	H30		H29		H28	
	申請	決定	申請	決定	申請	決定
1 早稲田大学			1		1	
2 東海大学	3	2	1		1	1
3 順天堂大学			1	1	1	
4 聖路加国際大学			1	1		
計	3	2	4	2	3	1

大学共同利用機関（0機関, 0機関, 2機関）	H30		H29		H28	
	申請	決定	申請	決定	申請	決定
1 人間文化研究機構					2	1
2 高エネルギー加速器研究機構					2	2
計	0	0	0	0	4	3

国立研究開発法人（5機関, 4機関, 3機関）	H30		H29		H28	
	申請	決定	申請	決定	申請	決定
1 日本原子力研究開発機構	4	4	3	4		
2 物質・材料研究機構	10	4	3	2	7	1
3 理化学研究所	3	1	9	3		
4 宇宙航空研究開発機構	4	1			1	1
5 産業技術総合研究所	5	3	12	4	18	9
計	26	13	27	13	26	11

社団・財団法人（1機関, 1機関, 2機関）	H30		H29		H28	
	申請	決定	申請	決定	申請	決定
1 公益財団法人がん研究会	1	1	1		1	
計	1	1	1	0	1	0

全体（59機関, 72機関, 92機関）	H30		H29		H28	
	申請	決定	申請	決定	申請	決定
計	156	55	204	72	317	87

(注) ()内は順にH30申請機関数, 29申請機関数, H28申請機関数を示す。1ポストに対して複数名採用したポストあり。

3. 事業アンケート

①研究機関対象

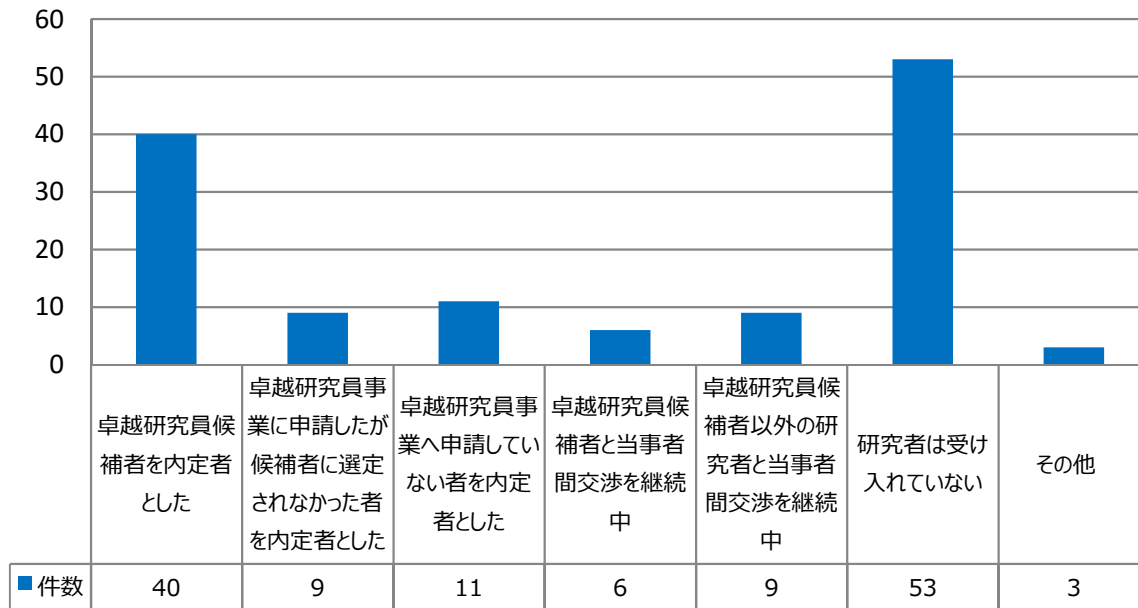
A.平成30年10月実施

平成30年度卓越研究員事業のアンケート結果（研究機関における当事者間交渉状況①）

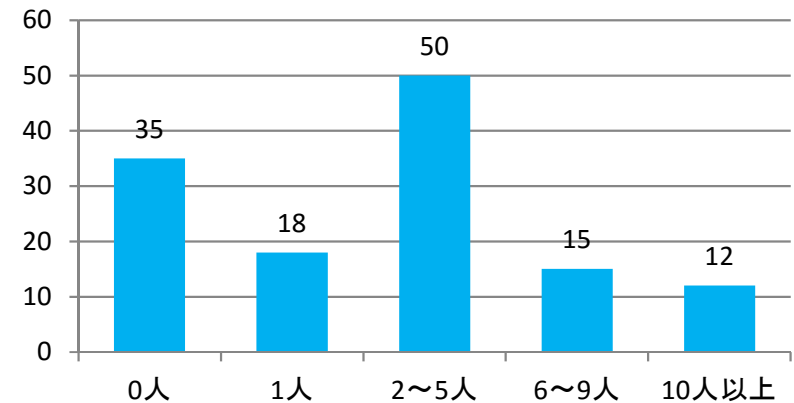
平成30年度に卓越研究員事業にポストを提示した機関に対して、当事者間交渉状況等についてアンケートを実施（H30.10実施 対象数：59機関・156ポスト、回答数：45機関・130ポスト（回答率83.3%(ポスト)）

＜現在のポストの状況＞

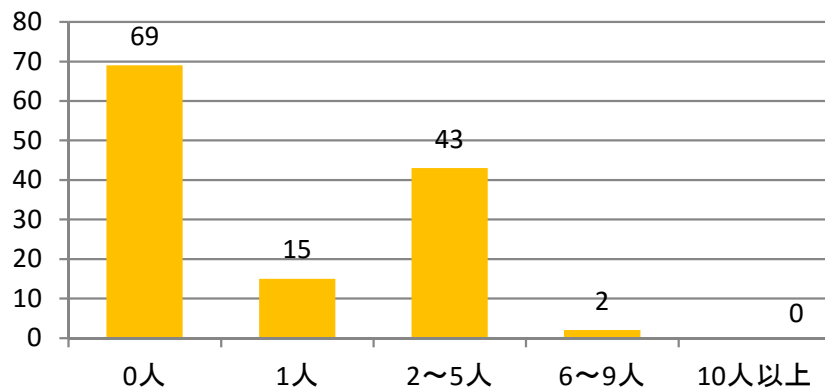
※同一ポストで複数人を募集している場合は、複数回答可



＜当事者間交渉を行った候補者又は申請者の数＞



＜当事者間交渉のため、機関側から連絡した者の数＞

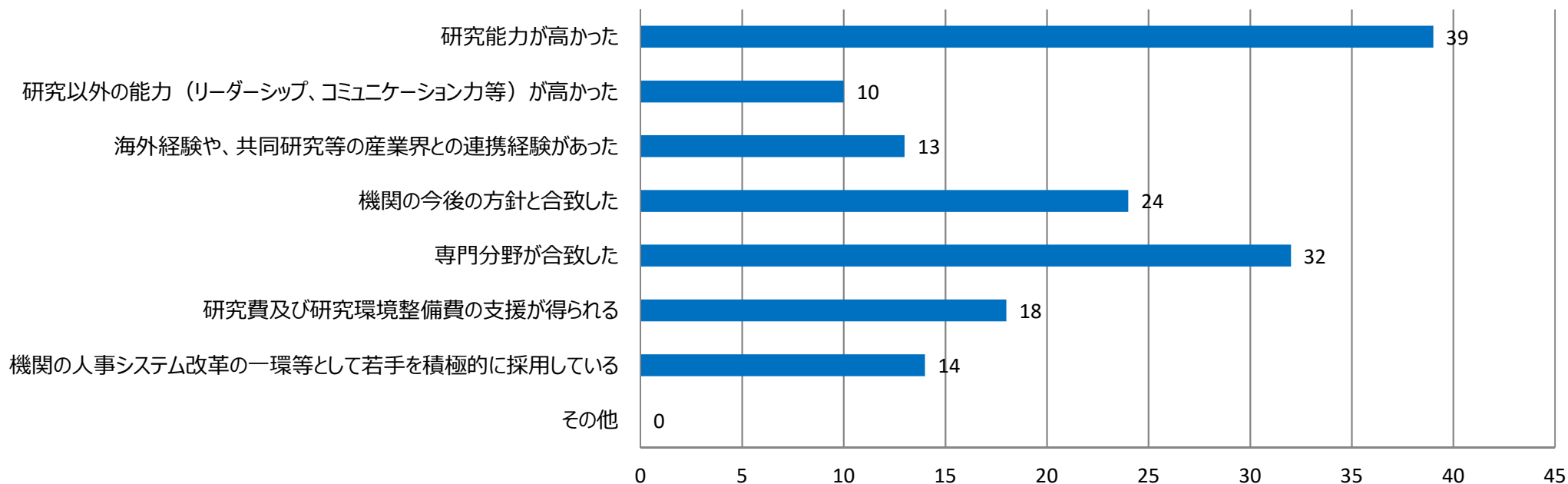


機関側から連絡をしなかった理由

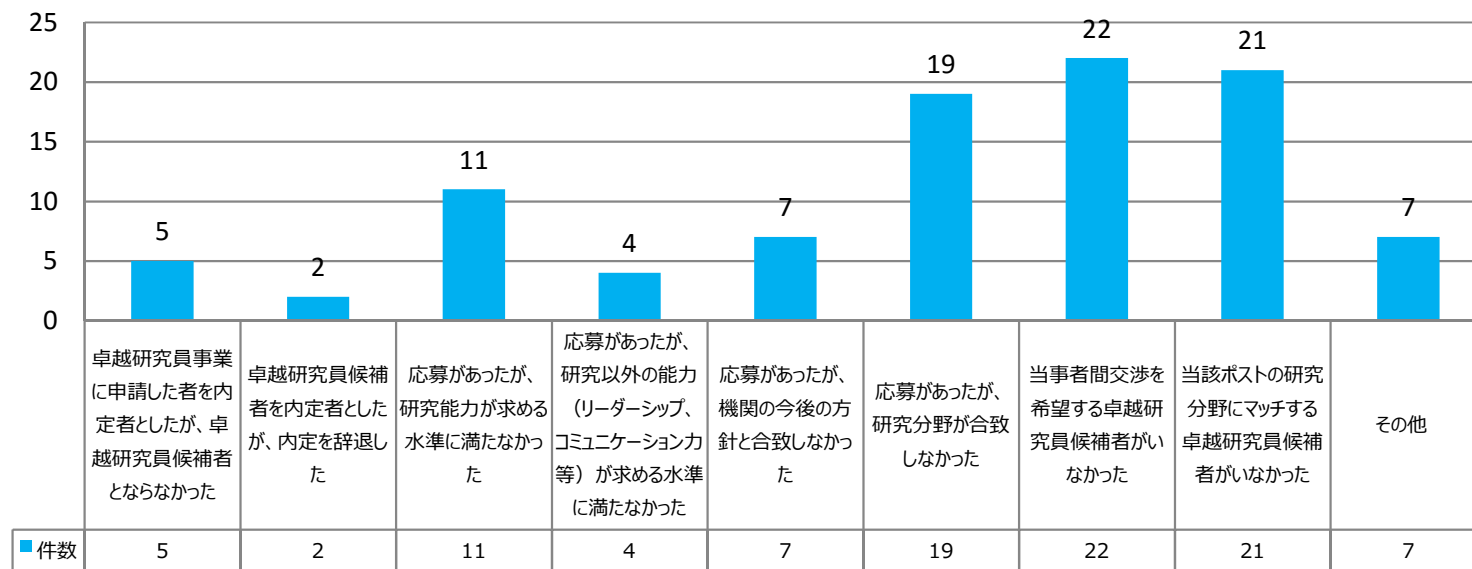
- ・候補者から先にコンタクトするように運用していたため
- ・ポスト一覧化公開時から問い合わせがあり、必要性を感じなかったため
- ・研究分野が合致しなかったため
- ・応募者を優先して交渉を開始したため
- ・企業での研究者としての意欲又は資質がある人が見いだせなかったなど

平成30年度卓越研究員事業のアンケート結果（研究機関における当事者間交渉状況②）

<内定にあたり採用した卓越研究員候補者を特に評価した理由（複数選択可）>



<卓越研究員候補者を内定者としなかった理由（複数選択可）>

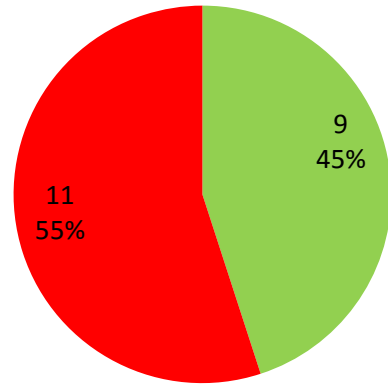


その他の主な内容

- ・研究分野のマッチする候補者は別の機関に採用が決まっていたため
- ・本学以外の機関と交渉が進んでいたため など

平成30年度卓越研究員事業のアンケート結果（研究機関における当事者間交渉状況③）

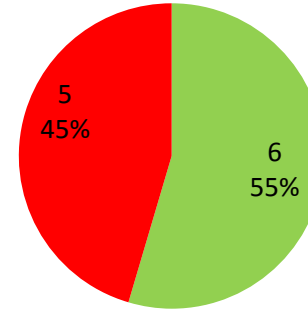
<卓越研究員候補者以外からの採用の状況>



- 卓越研究員事業に申請したが候補者に選定されなかった者を内定者とした
- 卓越研究員事業へ申請していない者を内定者とした

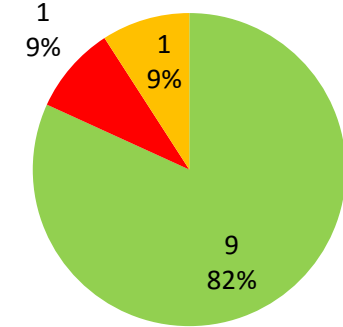
※2.卓越研究員事業へ申請していなかった者の詳細

年齢層



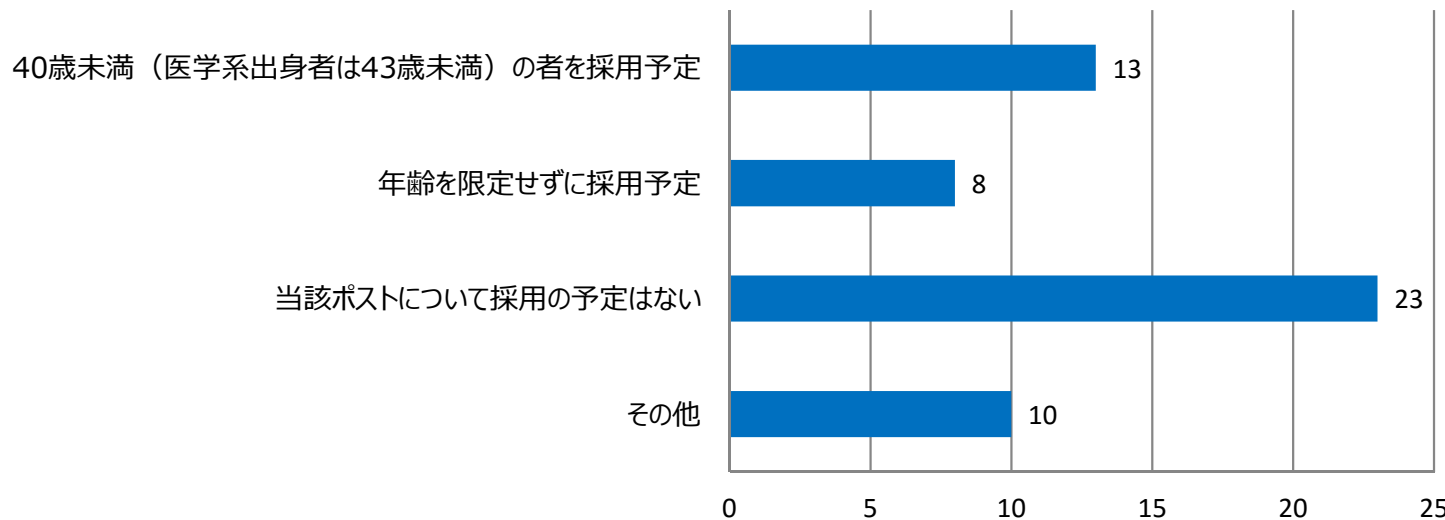
- 40歳未満（医学系出身者は43歳未満）
- 40歳以上（医学系出身者は43歳以上）

学位取得状況



- 博士号取得者、博士満期退学者、海外PhD
- 修士号取得者
- 学士号取得者

<研究者を受け入れていないポストの今後の活用予定（複数選択可）>

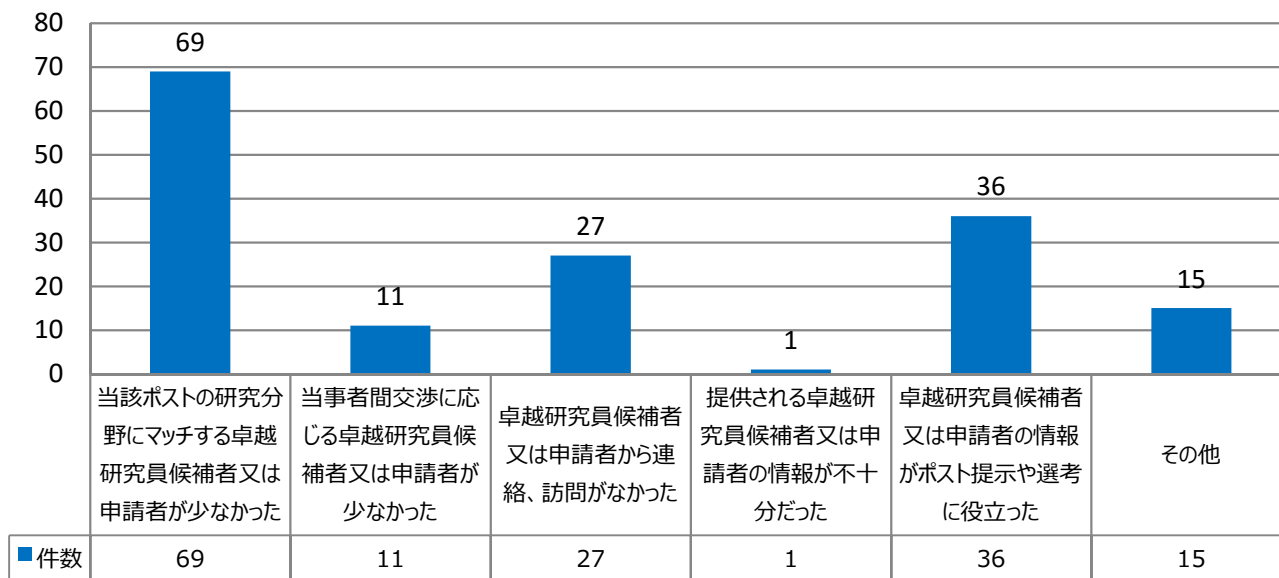


その他の主な内容

- ・次年度(H31年度)に同様の内容にて公募予定
- ・再公募のうえ選考中
- ・次年度以降に再公募を予定
- ・現時点で未定 など

平成30年度卓越研究員事業のアンケート結果（研究機関における当事者間交渉状況④）

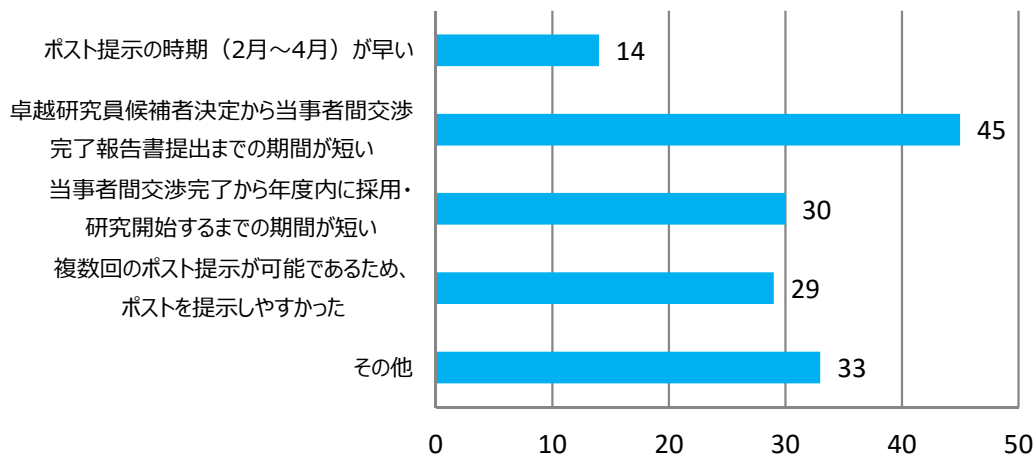
＜卓越研究員候補者又は申請者について（複数選択可）＞



その他の主な内容

- ・当該ポストの研究分野にマッチする卓越研究員候補者が非常に多かった
- ・分野不整合、又は能力不足で採用に至らなかった
- ・卓越研究員候補者の選考が業績重視に感じられる部分があった
- ・事前連絡で応募書類提出を求め、候補者について必要な情報を得た など

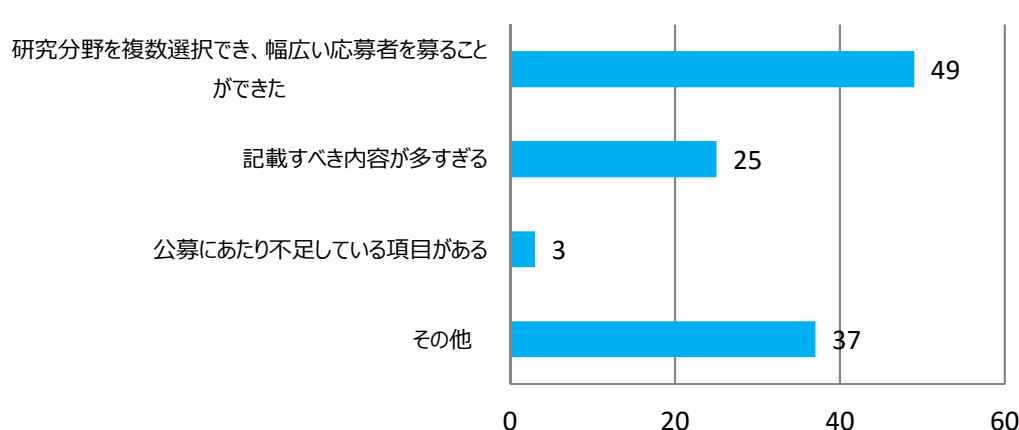
＜交渉のスケジュールについて（複数選択可）＞



その他の主な内容

- ・1つのポストを不採択になった候補者が別のポストに再チャレンジする機会がほとんどない
- ・機関への候補者リストの連絡を早くしていただきたい
- ・特に支障はなかった など

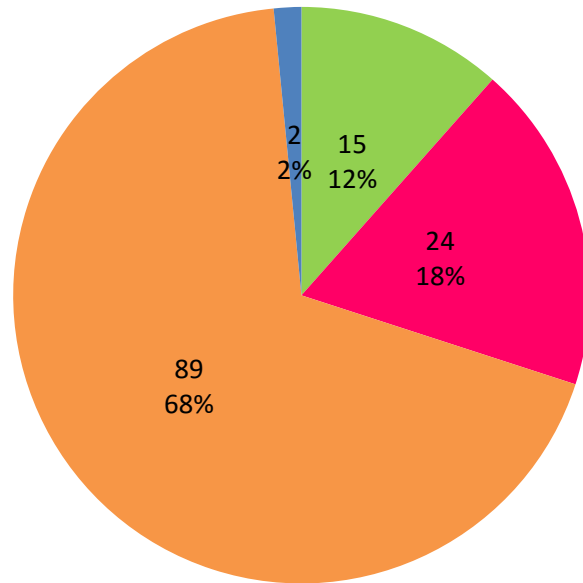
＜ポスト提示の様式について（複数選択可）＞



その他の主な内容

- ・和英併記を必須とする必要は無いのでは
- ・機関HPやJREC-INで補足情報を示すことができるので、現状の様式が良い
- ・内容は多いが必要な情報なので問題なし など

<平成30年度申請者（若手研究者）向け公募説明会への参加状況>

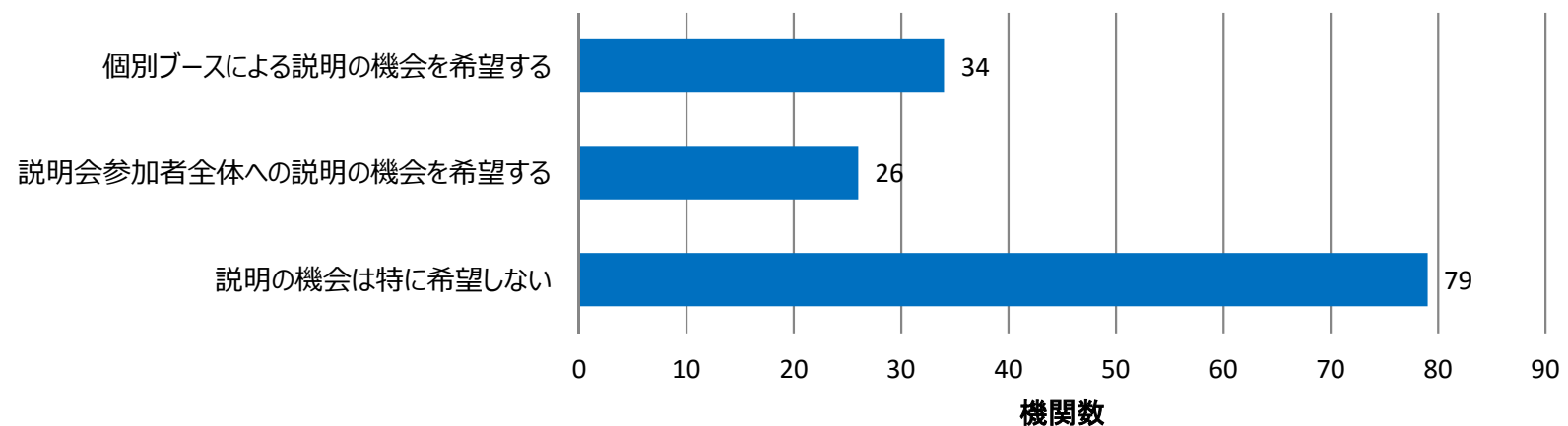


- 説明会に参加（全体説明又は個別ブース設置）し、募集に一定の効果があった
- 説明会に参加（全体説明又は個別ブース設置）したが、効果がなかった
- 説明会には参加しなかった
- 無回答

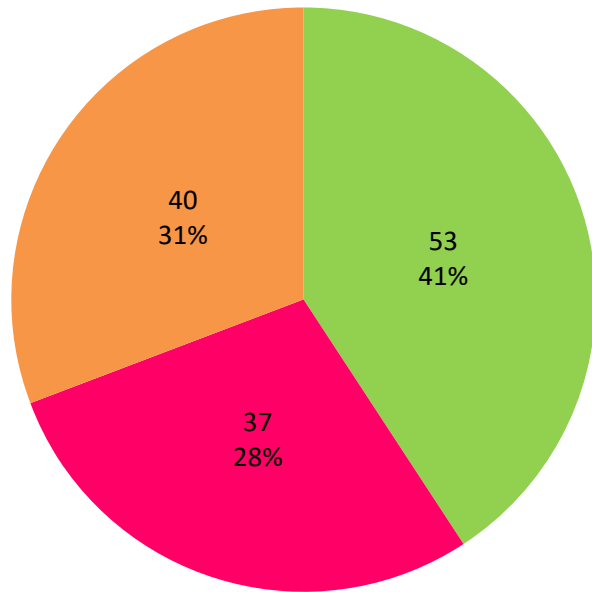
どのような効果があったか

- ・個別説明した研究者から申請があった
- ・他分野を専門とするものの、提示ポストの分野に興味を持っている方に説明することができた
- ・研究分野のマッチングができた
- ・全体説明と個別説明で 存在感を示すことができた など

<次年度研究者（若手研究者）向け公募説明会への参加希望（複数選択可）>



＜マッチング支援の利用希望＞

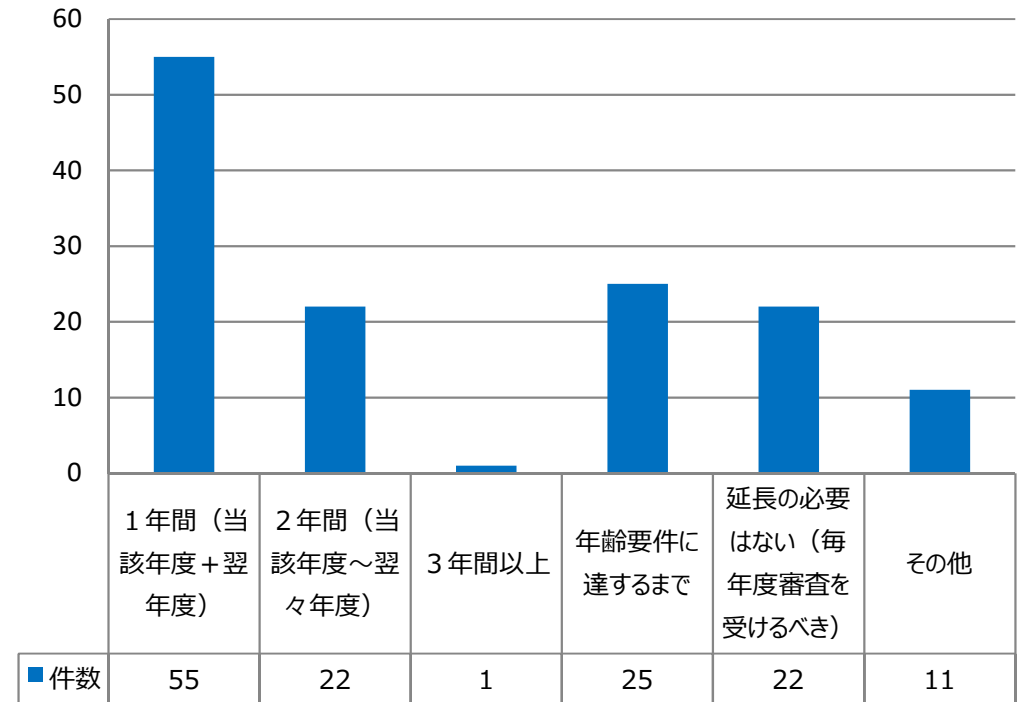


■ 利用したい ■ 利用の必要はない ■ どちらともいえない

必要はない、どちらともいえない 主な理由

- ・マッチング支援の具体的内容を踏まえて判断したいため
- ・間に第三者が入ると交渉が難しくなる
- ・応募者数が、対応可能な人数にとどまっているため
- ・本来、仲介業者にお願いすべき案件では無く、現在の進め方で良いと考えるため
- ・直接交渉したほうが早い。また、意志が的確に伝わる など

＜候補者資格の延長期間（複数選択可）＞



その他の主な内容

- ・ポスト提示側としては候補者情報が適切に更新されれば延長期間は不問
- ・独自の審査を行うので、資格取得後の業績も含めて総合的に評価する など

平成30年度卓越研究員事業のアンケート結果（研究機関における当事者間交渉状況⑦）

○主な意見（改善希望事項等）

	意見分類	主な内容
A	制度改善全般に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○候補者の決定から当事者間交渉、完了報告書の提出までの期間が短いため年度内に採用・研究の開始することが難しい。 ○年齢要件の厳格化、もしくは多様化を要望する。 ○ResearchMapと連携したデータ収集を希望する。 ○機関がこの制度を活用するハードル（テニュアトラックポスト等）を下げるのが重要。 ○卓越候補者、全員が卓越している研究者でもないため、候補者選定基準を厳しくするか、「卓越研究員」という名称は変えた方が良い。
B	卓越研究員候補者の選考に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○助教の採用であれば卓越研究員制度ではなく一般公募の方が採用につながる可能性が高いように感じた。 ○卓越研究員候補者とならなかった場合、その理由を知らせるべき。 ○卓越研究員候補者の選考基準が不明。 ○卓越事業の応募人数が年々増加し、選ばれた候補者のレベルが上がっているように感じる。本機関に採用される人数も倍増している。
C	当事者間交渉に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○卓越の申請者が候補者に選定される人かどうかの情報が何らかあれば事前交渉がしやすい。 ○医歯薬学系の卓越研究員候補者が少ないためマッチングが困難である。 ○候補者とのマッチングができるように分野の絞り込みができるように検討してほしい。（募集しているより近い分野の応募があるように）
D	経費に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○機関は若手教員の人件費の確保に苦慮している。5年程度の人件費を措置する方が有用と考える。 ○採用が翌年4月以降になっても研究費と環境整備費を確約して欲しい。 ○補助金申請の書類をより簡易なもの（見積書等は不要など）にしたほうが、研究者の負担が少ないのではないか。

3. 事業アンケート

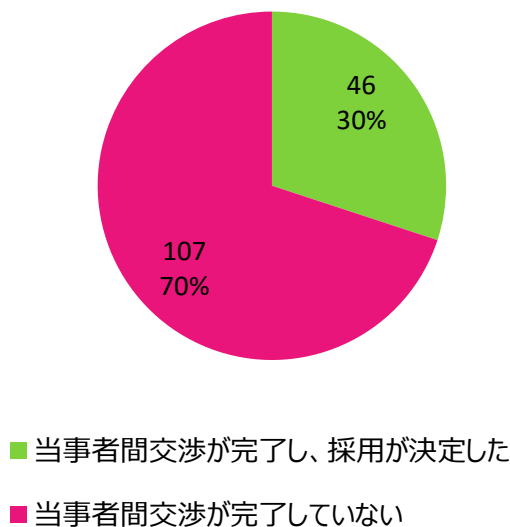
②研究者対象（卓越研究員候補者）

A.平成30年10月実施

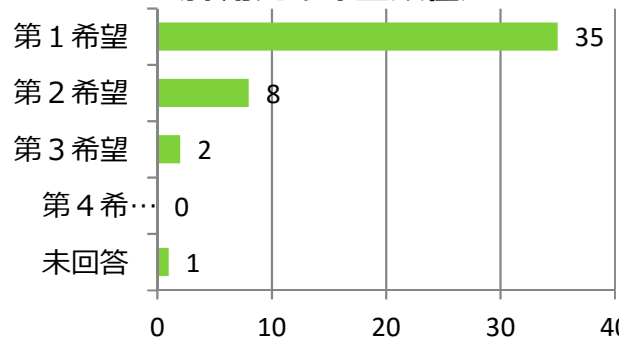
平成30年度卓越研究員事業のアンケート結果（卓越研究員候補者の当事者間交渉状況①）

平成30年度卓越研究員事業に申請し、卓越研究員候補者となった者に対して、当事者間交渉状況等についてアンケートを実施
 （H30.10実施 対象者数：200名、回答者数：153名（回答率 77%））

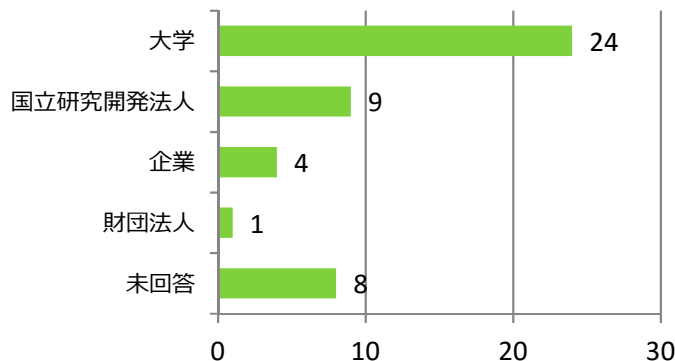
○当事者間交渉状況



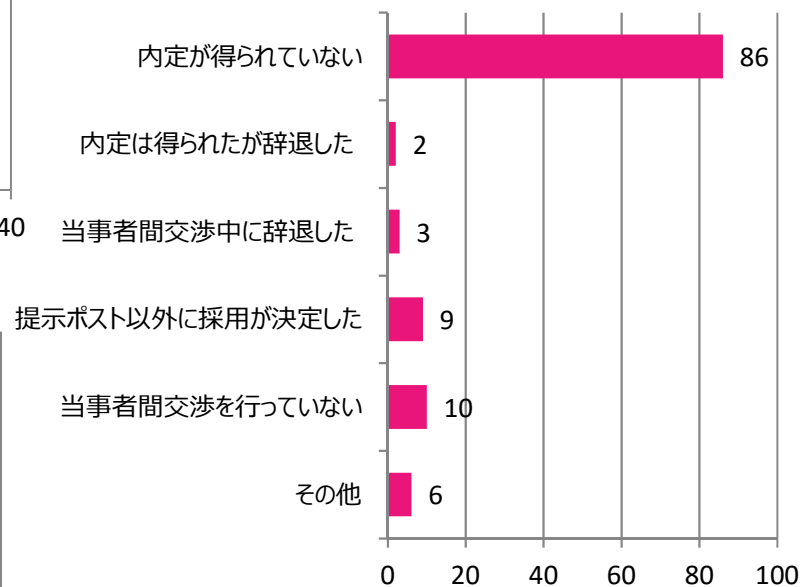
<採用先の希望順位>



<採用先の機関種別>



<当事者間交渉が完了していない者の現在の状況>



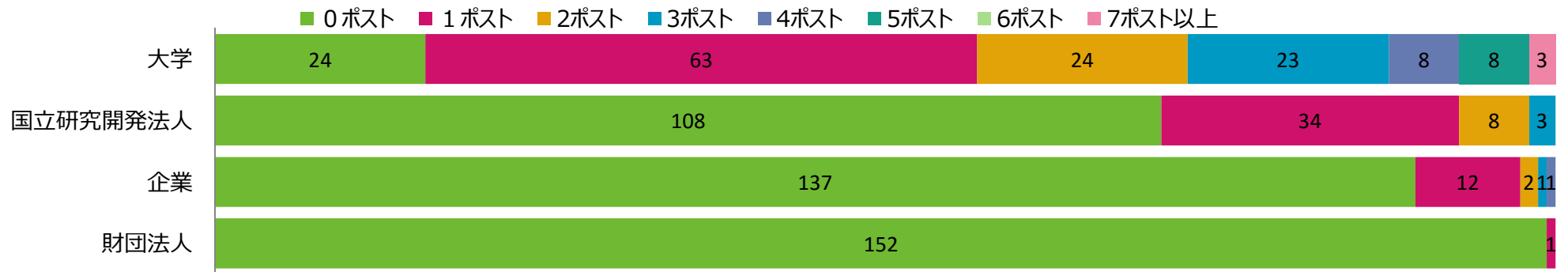
その他の主な内容

- ・卓越研究員候補に採用されたと同時に他の公募で採用されたため
- ・どれも分野が限定されており応募できるポストがなかった
- ・ポストに応募したが、先方から音沙汰もなく公募自体が流れた
- ・独立して満足に研究室を立ち上げられるポジションが見つからなかった など

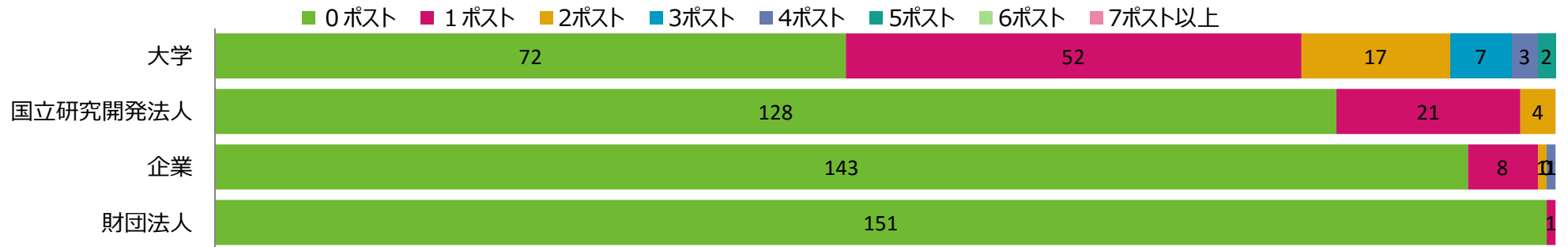
平成30年度卓越研究員事業のアンケート結果（卓越研究員候補者の当事者間交渉状況②）

＜当事者間交渉を行った機関別ポスト数＞

※質問対象者：全候補者

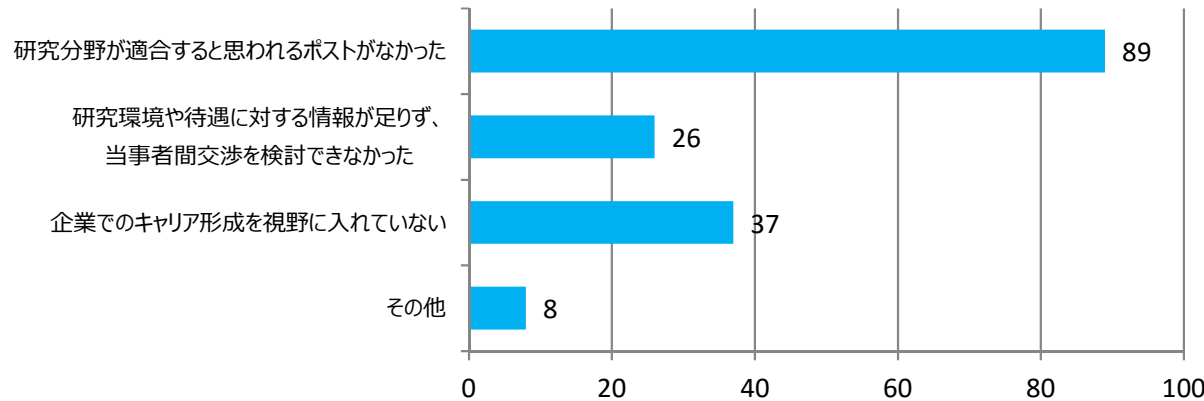


＜研究機関側から連絡のあったポスト数＞



＜企業との当事者間交渉を行わなかった理由（複数選択可）＞

※質問対象者：企業と当事者間交渉を行ったポスト数0と回答した137名



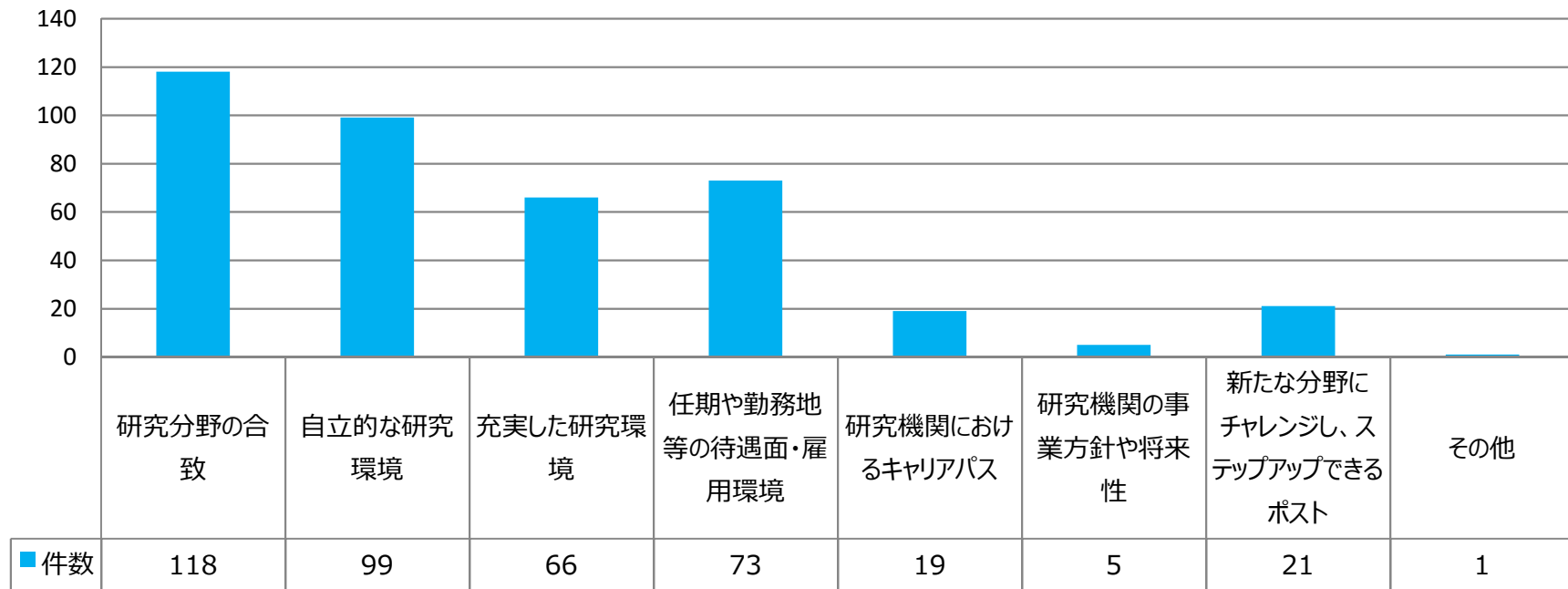
その他の主な内容

- ・自分の能力が相手に魅力的かどうかわからなかった
- ・勤務地に希望する地域がなかった
- ・視野には入れていたが、大学のポストが決まったためなど

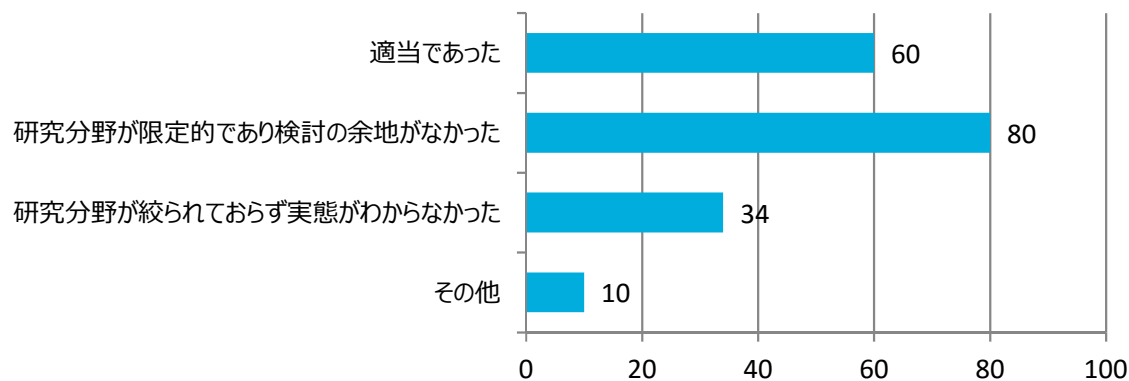
平成30年度卓越研究員事業のアンケート結果（卓越研究員候補者の当事者間交渉状況③）

＜ポストを選定する際に優先した点（複数選択可）＞

※質問対象者：全候補者



＜ポストの研究分野の提示方法について（複数選択可）＞



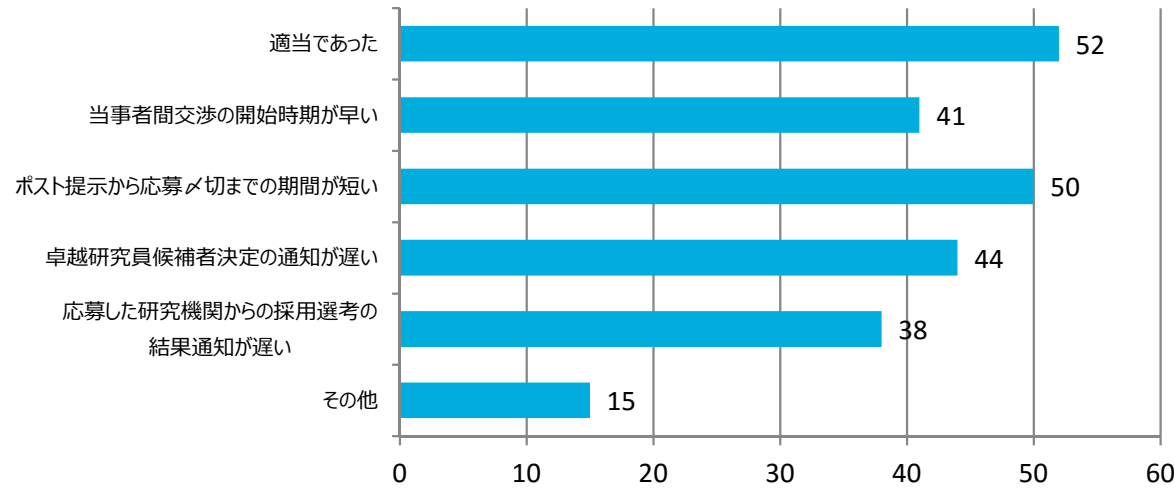
提示方法 その他の主な内容

- 雇用条件や研究環境が記載されていないものが多く判断に困った
- 科研費審査区分の小区分まで示してもらった方が分かりやすい
- Some posts are very specific so it is very difficult to match with their expectations. など

平成30年度卓越研究員事業のアンケート結果（卓越研究員候補者の当事者間交渉状況④）

※質問対象者：全候補者

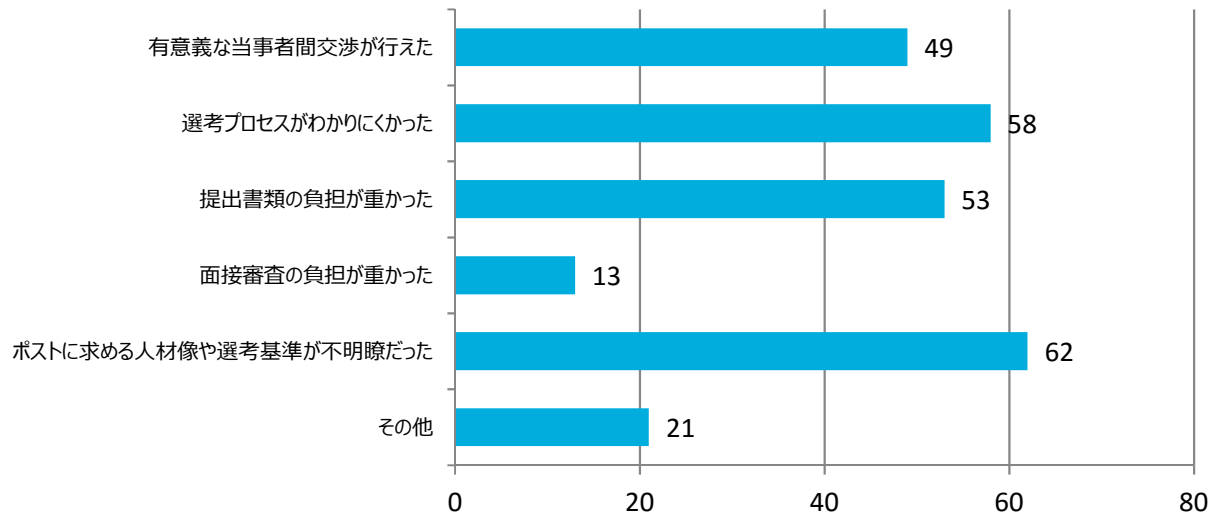
<交渉のスケジュールについて（複数選択可）>



スケジュール その他の主な内容

- 候補者決定通知から、面接までの期間が短い
- 短期間に集中して多くの面接などが受けられるスケジュールだと海外在住者は助かる
- 海外からの申請であったため、1週間以内に郵送必着は現実的に無理であった
- 事前申請(卓越の応募と同時)が必要な場合があり、卓越候補者になってもやりようがなかった など

<研究機関の実施した選考について（複数選択可）>



機関選考 その他の主な内容

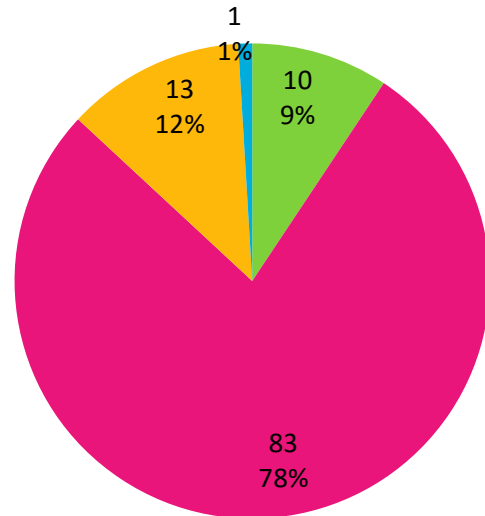
- 研究機関の採用担当者が卓越研究員事業の趣旨を理解していない
- 公平に選考がなされているか不明である
- 研究機関での選考結果がメール一本のお断りで、何が起こったのか全く理解できなかった
- 卓越研究員事業が掲げる事業の意義と研究機関が求めるものが一致していない など

平成30年度卓越研究員事業のアンケート結果（卓越研究員候補者の当事者間交渉状況⑤）

○ **今後の予定** ※質問対象者：当事者間交渉が完了していないと回答した106名

○ **その他** ※質問対象者：全候補者

＜今年度の当事者間交渉の意向＞

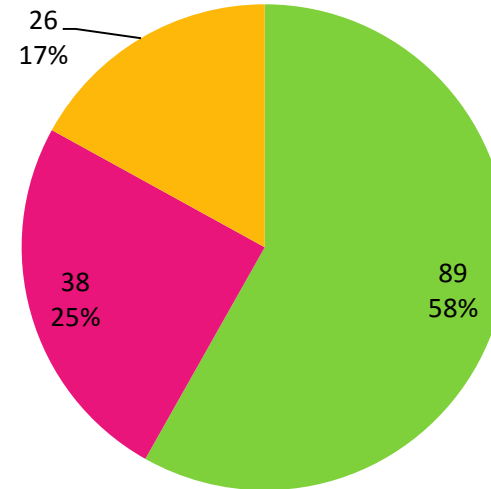


- まだ応募可能なポストがあるため、引き続き当事者間交渉を行う
- 希望する提示ポストの追加があれば、今年度の当事者間交渉を希望する
- 提示ポストの有無にかかわらず、今後の当事者間交渉は行わない
- 無回答

今後の当事者間交渉を行わない主な理由

- 研究内容の合致するポストがほぼないため
- 提示ポスト以外のポストに採用されたため
- 他の一般のポストへの応募に集中するため
- 来年度以降、改めて挑戦したいため など

＜マッチング支援の利用希望＞



- 利用したい
- 利用の必要はない
- どちらともいえない

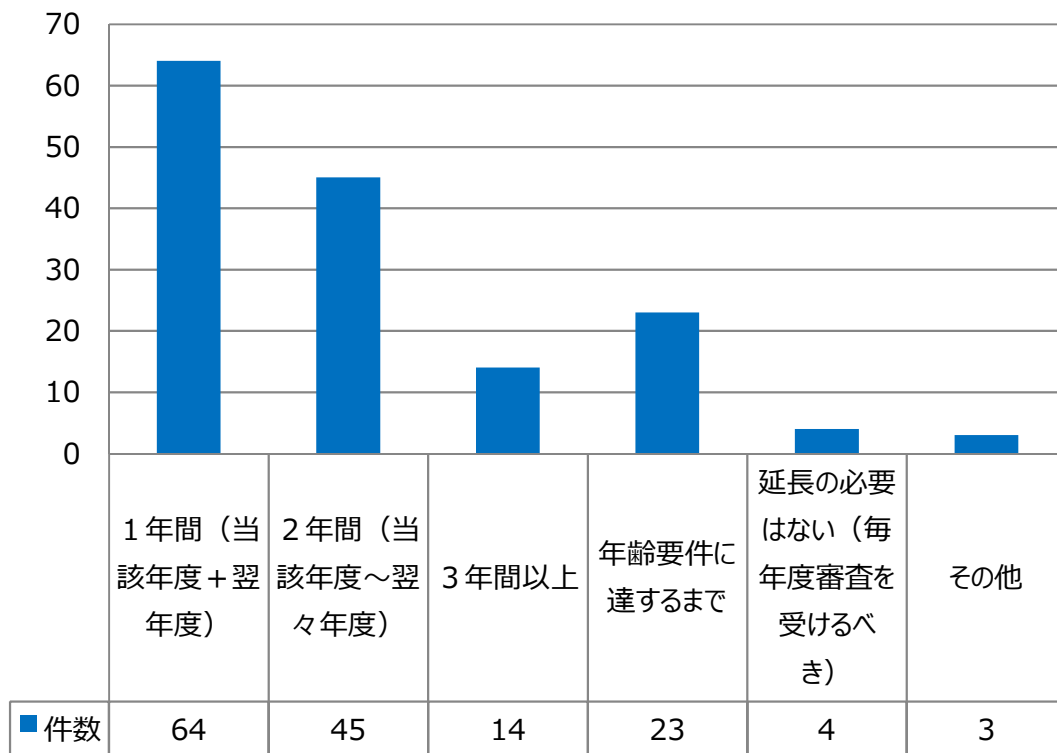
必要はない、どちらともいえない 主な理由

- 詳細が明らかにならないと利用できるか判断出来ないため
- 十分に機能するとは思えないため
- 仲介事業者より研究機関と研究者自身のほうが互いの研究の方向性を理解できると思うため
- 選考プロセスの透明性は確保されるが、双方の負担が増えると思われるため
- プロセスが長くなり過ぎるため
- ポスト数が少なく自分で探せるため
- 当事者間交渉を始める際のマッチングが問題であるとは認識していないため など

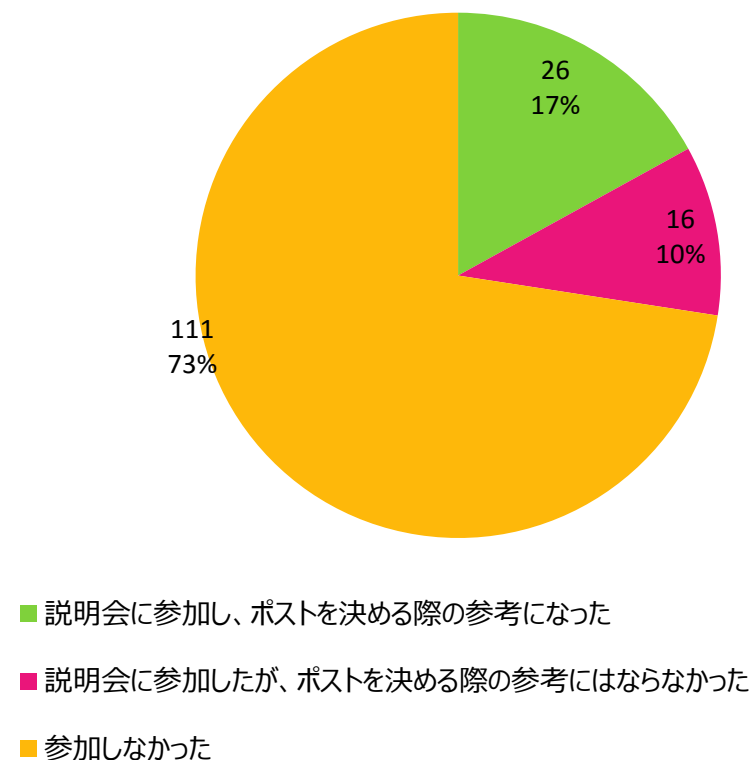
平成30年度卓越研究員事業のアンケート結果（卓越研究員候補者の当事者間交渉状況⑥）

※質問対象者：全候補者

＜候補者資格の延長期間（複数選択可）＞



＜平成30年度申請者（若手研究者）向け公募説明会への参加状況＞



その他の主な理由

- 卓越研究員の制度自体を見直すべき
- 卓越候補者になったのに決定しないのでは意味がない
- 毎年度審査を受けるべきだが、その際の採点にプラスアルファを追加する など

平成30年度卓越研究員事業のアンケート結果（卓越研究員候補者の当事者間交渉状況⑦）

○主な意見（改善希望事項等）

	意見分類	主な内容
A	制度改善全般に関する こと	<ul style="list-style-type: none"> ○卓越研究員候補者資格の延長を要望する。（8件） ○海外からの申請は応募締切、交通費負担などで不利となった。スケジュール等の改善が必要。（2件） ○あらかじめ卓越研究員制度に参加を表明したポストのみを対象とするのではなく、拘束条件なく機関が候補者を雇用できるようにしてほしい。 ○候補者が卓越研究員になれる割合を増やさないと事業の意味がない。 ○ポストが決まらない場合、卓越研究員候補者となったメリットがない。
B	ポスト・当事者間交渉に関する こと	<ul style="list-style-type: none"> ○機関における選考過程が不透明である。（9件） ○申請書と研究機関側への応募書類を別に作成しなくてはならず、大きな負担となった。卓越研究員の申請書や統一書式で研究機関側の審査が行われると良い。（9件） ○ポストの研究領域が非常に限定的であり、応募の余地がない。ポストを増やすか、募集ポストの分野を広くしてほしい。（7件） ○事業の趣旨と異なり、独立したポストではないと思われるポストが提示されている。（6件） ○機関による選考手順にある程度一律のルールが必要だと思う。（5件） ○人文学の分野でのポストが少ない。（2件） ○若手のプログラムとしては非常に素晴らしいと思うが、外国人に対しては言語の問題がある。候補者との間に交渉のための代理人がいれば完璧となると考える。（2件） ○当事者間交渉の競争率が高く、掲示されているポストに関しても通常の公募と余り変わりのない研究分野で「制度としての差別化」はなされていない。卓越制度のメリットが感じられない。（2件） ○ポストを提示する企業が減少しており、企業を志望する候補者は本制度を十分に発揮できない。企業ポストも充実させてほしい。
C	経費に関する こと	<ul style="list-style-type: none"> ○研究機関にインセンティブを与えるような制度変更が必要。（卓越研究員の人件費支援など）（4件） ○候補者にも研究費を交付し、研究成果を上げるチャンスとしてほしい。（4件） ○状況に応じて補助金の配分を変えるべき。（予算執行開始時期を、採用年度の次年度からも可能にする、繰り越しを可能にする等。）（4件） ○使途の制限を大きく緩和してほしい。（2件）

平成30年度卓越研究員事業のアンケート結果（卓越研究員候補者の当事者間交渉状況⑧）

○参考：卓越研究員候補者の属性

※年齢層、性別、研究分野、所属機関（申請時点）は実績値を記載

